

「ハーフは日本人じゃないの？」

立川市立立川第三中学校 二年

ハーマントリー デイラン

新型コロナウイルスが流行している中、二〇二〇オリンピックが開催された。家族と一緒にオリンピックをテレビで見ていた時、どの国の選手もどの競技も、アスリート一人一人が輝いて見えた。国として色々なことを背負いながら闘っている姿がとってもカッコいいと思った。同時にニュースなどでは、オリンピックの選手に対する差別・偏見があることに気付いた。その中の一つに大坂なおみさんは日本人なのかと疑問視する声や最後の聖火ランナーにふさわしくないという記事をみた。そこで、ハーフといわれている僕は、家族と一緒に今まで感じてきた差別や偏見、また生活の中で起きた不自由について話し合ってみた。

僕が今までの生活の中で不自由や偏見を感じたこと、第一位は、名前についてだ。例えば自己紹介のときに名前を言うと、みんなはカタカナの名前に聞きなれていないため、必ず聞き返してくる。又、必ずどことハーフなのか聞かれる。他にも、文字数制限のあるほとんどの書類には名前が入りきらない。学校で使っているクロムブックにも名前が全部入りきらない。マークシート式テストを受けた時には名前が全部入らず、とても焦った。又、ローマ字と英語表記がちがい、全く別の名前になっ

てしまうこともある。僕の名前はデイルン、英語で「DYLAN」と書くのに、日本ではいつもローマ字で書かされる。ローマ字で書くと「DEIRAN」と書かないといけない。これだと僕の名前ではない。名前がカタカナだというだけで色々な手続きや名前の記入がスムーズにできず不自由を感じる。第二位は、ハーフだから〇〇。これはハーフだから英語ペラペラだね。ハーフだから英語のテスト一〇〇点だねと決め付けられることなどだ。これはかなりのプレッシャーを感じている。日本で育ち、日本の学校に通い日本語でこの文章を書いている僕が、学んできた事はみんなと同じだ。父との会話で聞いたり話したりすることは確かにみんなより出来るかもしれないが、文法はさっぱり分からなかった。だから僕はハーフなのにできないの？と言われないように必死に勉強をしている。第三位は、純粋な日本人ではないと思わされる事。言葉で表わすのがとても難しいのだが、国籍もパスポートも日本だけけれど、普段のかかわりの中でふと日本人ではなく、ハーフという区分にされているように感じる事がある。

しかし、僕は今まで周りの人たちからイヤだなと思った言葉をかけられた事がない。僕は友人や先生、仲間に恵まれているのだと思った。ハーフだから〇〇だね、という言葉は僕に直接じゃないとしてもよく聞くし、言った人がこの〇〇の中に入っている言葉が相手にとって偏見や差別になっている事を自覚していない事もある。気づかないうちに、僕

の言動や行動も相手にとって差別や偏見・不自由になっていたのかもしれないと考えなくてはいけないと思った。

だから、どんな事や言葉が相手にとって不自由になっているのか、偏見・差別を感じるのかを考え、感じ取ることができるようになりたい。又、どの国の外国人でもどの国とのハーフでも日本人でも、不自由なく同じようにみんなが住みやすいと思えるようになると良いと思う。みんなが住みやすいと思えることが国際化につながっていくのではないだろうか。小さな偏見や不自由に気付いて、変えていく力もつけたいと思う。そして、見て見ぬふりをせず、声に出す勇氣も、つけていきたい。